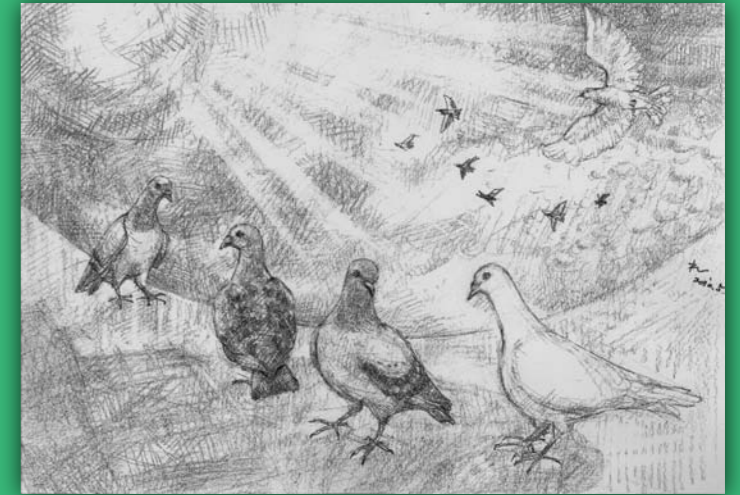


# 所報



## 教員長期研修生紹介

本年度、10月1日から9名の先生方が6か月間の研修に取り組んでいます。

○研究主題と「感じていること」

 <p><b>広島市立東浄小学校 教諭 奥村 鯉都子</b></p> <p>○一人一人の気付きを質的に高める生活科学習指導の研究 「たくさんの方とすてきな出会いがありました。この経験を糧に勤や度胸も磨きたいです。」</p>	 <p><b>広島市立庚午小学校 教諭 中尾 由佳</b></p> <p>○文章題解決過程における確かな課題把握のための手立てに関する研究 「長期研修での人との出会いや学びを通じて、新たな自分と目標を見付けることができました。」</p>
 <p><b>広島市立宇品小学校 教諭 福永 徹</b></p> <p>○運動を楽しむことができる小学校中学年体育科の学習指導法に関する研究 「多くの方から学んだことを、今後の現場の実践に生かし、人間として成長したいです。」</p>	 <p><b>広島市立安東小学校 教諭 西川 由紀</b></p> <p>○小学校英語科における「ことばについての知的な気付き」を促す15分授業の工夫 「新たな発見の連続で、学ぶ楽しさを味わいました。自己を磨く機会を頂いたことに感謝します。」</p>
 <p><b>広島市立安西小学校 教諭 川崎 紀子</b></p> <p>○小学校国語科第4学年における「話し合う能力」を育てる指導法に関する研究 「様々な人や本との出会いを通して、人として教師として視野が広がったと思います。」</p>	 <p><b>広島市立真亀小学校 教諭 平松 嘉浩</b></p> <p>○子どもたちが多様な文化に気付き、受けとめる力を育てる総合的な学習の時間における授業の工夫 「研修を通して、自己の視野を広げ、国際教育について深く学ぶ機会を得ることができました。」</p>
 <p><b>広島市立安西中学校 教諭 松岡 美香</b></p> <p>○目標の明確化と指導と評価の一体化に関する研究 「ここでの出会いに感謝の気持ちで一杯です。今後も自己の研鑽を積み重ねて参ります。」</p>	 <p><b>広島市立五日市南中学校 教諭 川上 美和</b></p> <p>○中学校理科における「生徒の学力と成長を保障する教育方法」に関する研究 「教育理論に触れ、センターの方々や長期研修生から得たことを教師生活に活かしたいです。」</p>



## 巻頭言

## 授業研究のすすめ

日本女子大学 教授 澤本 和子

学校で教師が子どもを指導するときや、保護者の相談にのるときに、知っていることをすべて話すわけではない。子どもがよりよく育つのに役立つ情報を選択し、わかりやすく話すのである。そこに教育者としての専門性がある。教師の「実力」といわれる実践的力量的の1つは、対話過程で適切な現状把握と意思決定と対処行動がとれることを意味する。近年の教師教育・授業研究の成果は、授業中の教師の思考過程が、膨大な情報処理過程であるとする。

この能力を実践的力量的といい、それを支えるのが「実践知」だということ。ベテラン教師の実践知は、数分の1秒から数秒以内に、教材の特質から学級の雰囲気、個々の子どもの状態と学級の間関係、環境や学習の流れ等を検討して、必要な対処行動を決めて実施するのに使われる。ふだんはこれが円滑に進んでいるので、教師は自分がそのような大変な作業をしていることに気づかない。ほとんどの教師は問題点を話し合うので、1時間の授業の中に多数存在する実践知の成果に気づくことは少ない。

小学校教員時代の筆者は自分の授業改善のために、仲間の教師たちと授業研究を始めた。その過程で大学の研究者と協同研究するようになり、これに

気づいた。大学に出てからの20年間は、現場を支援している。その過程で心がけたことは、先生方に「自分の実力」を意識してもらうことだった。わずか1時間の授業でも、教師たちは幾つもの教えるための「知恵」を実行している。教師は自分の授業の問題解決のため授業研究をするが、同時に、自分たちの「実践の知恵→実践知」を豊かに実施していることを確認することも大事だ。

授業研究会に参加したときの筆者は、授業の良否を言うことはまずない。そのように教師が行動したからには、その必然性があるに違いないと考えるので、まずは、その先生の話を知りたいと思う。授業の見方は、プロでも十人十色である。人生観や教科・経験等が違えば、授業の見え方、感じ方、考え方も違う。授業研究は授業者を中心にして、それを忌憚なく話し合う場である。教師同士や教師と研究者等の協同作業でそれを明らかにし、因果関係を考察して授業を再設計する。こうして体力をつけて、明日の希望を子どもと共に実現する。それが私の願う授業研究の姿である。それゆえ、授業研究では研究仲間が重要になる。甘い関係ではなく、温かくて厳しい生涯の友といえる。

## 館内展示

みなさんの作品で館内に潤いが生まれています。



本年度の研究成果物をぜひご覧下さい。

## 編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068  
 広島市東区牛田新町一丁目17番1号  
 TEL (082) 223-3563 FAX (082) 223-3580  
 E-mail: center@edu.city.hiroshima.jp  
 外部Webページ: <http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/>  
 内部Webページ: <http://192.168.9.12/>



外部 Web ページ



内部 Web ページ

題 字: 牛田中学校校長 湯浅 克廣 表紙絵: 段原小学校校長 三上 玲子

広X6-2010-196 (2) 再生紙を使用しています。

も	巻頭言		
	授業研究のすすめ	日本女子大学 教授 澤本 和子	P1
く	事業報告	～研究・研修の成果を子どもの教育に生かすために～	ともに見つめ、ともに歩む教育センター P2,3
じ	教育センターひろば	教員長期研修生紹介, 館内展示	P4



# — 事業報告 — 研究・研修の成果を子どもの教育に生かすために

ともに見つめ、ともに歩む教育センター

## 校内研修・自己研修支援

### サテライト研修

校内研修の活性化のために教育センターが支援を行うという趣旨に賛同いただいた小学校19校、中学校6校、特別支援学校1校の計26校に、年間を通じた授業研究の支援を行いました。各サテライト研修実施校の要望に応じて、事前の学習指導案の検討、協議会当日や次回の協議会の運営計画の立案など、研究推進担当者や授業者の先生方を通して、支援を行ってまいりました。この研修では、各校が自校の授業研究を確立できるようになることを目指しています。



〈受講者の声〉  
「活発な協議会になり、やりがいがある。」  
「意見交流が活発となり、授業改善が見られ始めた。」



土曜開館サタデー広場



土曜開館マイ・セミナー



授業づくりコーナー

自己研修の輪が  
広がりつつあります。

## 研 修

つまずきの要因は何だろう？

自分の目指す教師像とは？

### 特別支援教育に係る研修

【特別支援教育指導講座（2組）】では、子ども療育センターとの共催で、発達障害のある子どもの理解と支援について研修しました。診療に関わっている医師からの講義の他、子どもの目に見える実態だけでなく、その背景にあるつまずきの要因を推測し、つまずきの要因に応じた具体的な支援の計画を立て、実行・評価・改善するというPDCAサイクルに係る研修を行いました。計画段階では、教育センターが作成した支援ソフトを活用し、好評でした。

〈受講者の声〉  
「ソフトは、子どもの「目に見える実態」「推測できるつまずきの要因」「支援方法」が、箇条書きに示してあるので、読みやすかった。」



### 初任者研修・2年次研修・3年次研修

【初任者研修】では、主に学習指導、学級経営、生徒指導等の力を身に付ける教育実践に係る研修と、初任者同士の人間関係づくりに係る宿泊研修とを実施しました。特に宿泊研修でできた同期の仲間との人間関係は2・3年次における研修のモチベーションにもつながっていきます。2年次及び3年次教員研修講座では、5年後に目指す教師像に向け、自己の研修を計画する力、日々の実践を振り返る力を身に付けることを目標として研修を実施しました。

〈受講者の声〉  
「研修後には「よし！また明日からがんばろう！」という気持ちになりました。」



## 研 究

### 個別の指導計画及び個別的教育支援計画の作成と活用の支援に関する研究 戸田美鈴指導主事

個別の指導計画及び個別的教育支援計画の作成と活用するためには、各幼稚園、学校全体で取り組むことと、個々の教員の資質向上の双方が必要です。この研究では、各幼稚園、学校での取組を分析し、計画の作成と活用のためのヒントとなるパンフレットや、教員のためのソフト「やってみよう！つまずきから考える支援」を作成しました。



### 教職経験3年次までの教員を対象とした研修の在り方に関する調査研究 高田尚志指導主事

今後、各学校において、若手教員の担う役割はとて重要になってきます。今後は学校と教育センターが一層の連携を図りながら若手教員の育成に当たっていく必要があります。そこで、教職経験3年次までの先生方の自己成長の状況を調査し分析することから、これからの若手教員研修の在り方を提言します。

### ICTの効果的な授業活用に関する研究 住吉磨主任指導主事(事)主任 野上真二指導主事

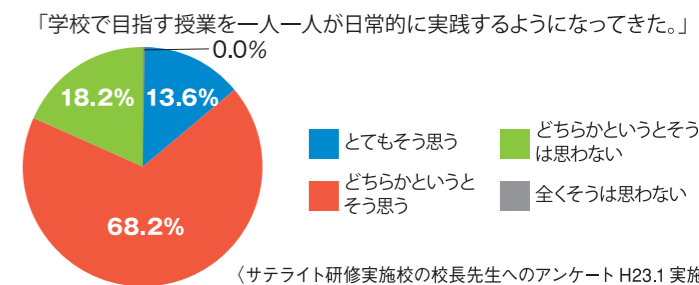
電子黒板や50インチデジタルテレビ等のICT機器について、いろいろな活用の仕方を教えて欲しいという声をたくさんいただきました。そこで、本研究では研究協力校による実践事例をもとに、活用方法の分類・整理を行い、代表的な実践事例をパンフレットにまとめました。収集した実践事例は、教育センター内部Webページに掲載します。



### 授業研究の改善に係る実践的研究

正原直行指導主事 清水剛指導主事  
嵐森裕暢指導主事 浜田龍治指導主事

今年度当初発行した、パンフレット『つながる協議会への工夫～校内研修充実のために～』をもとに、サテライト研修実施校の校長先生や研修推進担当者のアンケート結果を踏まえて、実践を分析しその良さや今後の課題を明らかにしようとしています。また、研究推進担当者の授業研究に対する工夫や願いをふまえて、授業研究が活性化するポイントや工夫をまとめます。



### 指定都市教育研究所第16次共同研究 「今を生きる子どもたちの姿や思いを探る」

土井延久指導主事

この共同研究では、現在、アンケート調査の結果を経年比較し、大都市の子どもたちの学校・家庭・地域社会での実態や意識について分析しています。調査結果は教育センターの内部Webページに公開していきます。校内研修の資料として活用したり、自校の子どもたちの実態や意識を分析する際に活用したりしてください。

### 校内における人材育成に関する基礎的研究

藤村和彦主任指導主事(事)主任  
島本圭子主任指導主事 堂鼻康晴指導主事

各学校が有している組織としての人材育成の機能は、今後ますます高められていくことが期待されています。本研究では、校内における人材育成の要を、日々の仕事の中核をなしている授業ととらえます。そこで、各学校における若手教員の授業力向上に焦点を当て、その状況を把握・分析することを通して、授業力を向上させる組織の在り方や仕組みについて具体的に提言していきます。

### 校内での授業・保育研究に係る研修

もっと校内の授業研究を効果的にする方法とは？

【授業・保育研究に係る研修講座】講師：早稲田大学 教授 浅田 匡  
授業力を向上する保育・授業研究の在り方、進め方について多くの示唆をいただきました。

#### 【授業研究推進教員研修講座】

第1日 パンフレット「つながる協議会への工夫～校内研修会充実のために～」の説明と、本川小学校と中広中学校の研究推進担当者が校内授業協議会をどう工夫したか発表していただきました。

第2日 講師：日本女子大学 教授 澤本 和子

「授業リフレクション」の進め方について事例をもとに講義していただきました。

第3日 サテライト研修実施校の大塚小学校と二葉中学校の授業協議会に参加して、自校の授業協議会を振り返るとともに、次年度に向けて授業研究をどう工夫していくか協議をしました。



〈受講者の声〉  
「協議会の前に、学習指導案や協議会の進行について十分な検討しておくことが大切だと感じました。」

### ICT活用研修

授業で活用するヒントとは？

学校に導入されているICT機器を授業で活用できるようになることを目指しています。講座では、実際に50インチデジタルテレビや教材提示装置等のICT機器を活用して教材を作成し、模擬授業を行うことで、授業でICT機器を活用する際の見通しをもっていただきました。

〈受講者の声〉  
「ICTの授業活用イメージが湧いた。」  
「実際に教材を作成できたので、授業で活用してみたい。」

